

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302008		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームみやま2階		
所在地	福島県郡山市富田町字上ノ台60-13		
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様や職員が枠にとらわれず、個人の能力を発揮し伸び伸びと生活・就労ができるようにしている。(障害者就労、外国人就労含む) ・入居者様だけではなく、職員自身も楽しいと思える雰囲気・環境作りをしている。 ・お互いを家族のような気持ちで思いやり、入居者様や職員同士が思いを打ち明けられる雰囲気づくり、関係性が築けるよう努めている。 ・コロナ禍であっても室内外で楽しんで頂けるよう、アイデアを出し合ったり、話し合いを重ね実行している。 ・ホーム内にとどまらず、いつ災害に巻き込まれても対応できるよう、火災訓練の他、地震や豪雨、竜巻等による災害、断水や停電時の対応といった災害対策訓練を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度会議内で理念内容の継続や改善について話し合いをしている。また新人職員や外国人職員には入社時に内容を詳しく説明し、理解して頂いたうえで毎朝職員で唱和し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍により、地域のつながりは制限されているが、廃品回収や地区の側溝掃除へ参加したり、散歩中のあいさつや移動販売利用の継続、地元理容室の訪問散髪再開、推進会議メンバーと定期的に現状報告等を行い交流が途絶えないようしている。コロナ禍前は、地域の催し物に参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、関りを通して理解して頂くことが難しい為、推進会議資料内や直接周辺施設へ出向き認知症症状による困りごとや、支援内容をお伝えし理解して頂けるようにしている。また、単独外出時に備え地域の方や周辺施設に情報開示や協力を仰いでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホーム内の立ち入り制限により、会議開催はできないが資料内に現状報告し、返送書類やお電話を通じて課題についての意見やアドバイスを頂きケアに活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の市役所訪問時や電話等を利用し、担当者へ相談することによって迅速な解決、必要に応じての情報収集や交換等も行い関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝夕の防犯対策以外は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。拘束をしない事から予測されるリスクについて、入居契時や必要に応じて説明等を行い理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束等適正化検討委員会を開催し、身体拘束についての研修や見過ごされている不適切ケアがないかの振り返りを行っている。研修内容はスタッフ会議やグループLINE等で報告し全職員が周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方をきっかけに、日常の中で役割等について教えたり、研修参加により理解に努めるようにしている。また、必要に応じて、ご家族へ後見人制度の活用を提案する時もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容はしっかり説明し十分に理解・納得頂いたうえで入居できるようにしている。改定時の際は、お知らせを送付するだけでなく、直接ご連絡をし説明することで理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には関わり合いの中でご希望をお聞きし、ご家族には面会や電話、推進会議の意見書の中で要望や意見を伺うようにしている。上がった意見等については推進会議資料等を通してお伝えすることで外部者への周知や、会議内で話し合う事で全職員への周知を行い、ホーム運営やケアの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは全職員で造るものと考え、会議内や日常のなか、定期的な面談の中で出た職員の意見や提案はできるだけ受容し、今以上のホーム運営やケアの向上ができるようにしている。本社への意見や要望等も、本社会議の際に現場の声としてあげ、運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	楽しく生き生きと働けるよう個性の把握に努め、一人一人が活躍できるように配慮している。職員の努力や勤務状況を踏まえ個人評価への反映、昇給・昇格等をしている。また個々の家庭事情や悩み等は一对一の場を設け話を聞いたり、意見を尊重できるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた資格取得のバックアップや、現在ホームで抱える問題に合わせて内部研修を実施することで職員がスキルアップできるようにしている。また、力量を見極め、日々のケアへのアドバイスやフォローをしたり、未経験への挑戦を促すことで、技術や知識を更に身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修等による交流の場は設けられなかったが、ホーム運営が閉鎖・独自のにならないよう他施設等とのパイプ役となり情報収集・交換を行い職員へ伝達することで他施設の現状の把握、ケアやサービスの向上に務められるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査等に誠実丁寧な姿勢で、できるだけ本人の声に耳を傾け不安等をお聞きしている。心情を理解し、必要なサービスを見極めることで安心して入居頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までの苦労や抱えている不安や希望について率直に伺い、耳を傾けることで初期の関係構築に努めている。また入居相談や予約等のサービス利用前であっても問題解決へのアドバイス等をしたり誠実に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や必要としている支援を見極め、ご家族の協力や器具・資源の活用、医療等を含む多種多様なサービスが利用できるような提案し、サービスに導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極め、できないという決めつけではなく、どのようなフォローをすればできるかという考えで実践にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であっても家族と本人の絆を大切にす為、〇〇越しでの面会やSNSを利用し本人の生活様子を発信することで安心出来るようにしている。必要に応じて、病院受診や買い物等の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外部の方との繋がり方も限定されるが、本人の強い希望にて思い出の場所へ職員と一緒に出かけたり、お墓参りへいくなど、感染対策をしながらできるだけ要望に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や関係性を把握し、利用者同士のトラブルが出来るだけないように席の配置を工夫したり、気が合う人を見つけるため、1、2階関係なく行き来しお話をすることで、更に孤立しない関係が築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、退居、移動された後も、お会いする機会があった際には、その後の様子をお伺いしている。必要に応じて相談やその後のフォロー等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からコミュニケーションを取り、本人の希望に沿った暮らし方の把握に努めている。困難な場合は本人が気持ちよく暮らしていただけるよう、カンファレンス内で話し合いながら出来るだけ過ごしやすい環境になるよう話し合い支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得た、これまでの暮らし方や情報、現在望む過ごし方踏まえながら、現在提供されているサービスが合っているのか3か月に一度カンファレンス内で見直しを行っている。プラン以外の支援内容については毎月行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナ禍により制限があるため、希望以上の外出ができないことで身体の低下、気分の低下がみられるが、移動販売による買い物や行事等を企画することで気分転換ができるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在抱えている課題とケアを把握し、本人や家族の希望を伺いながら、医師や看護師、PTに相談した結果をもとに、カンファレンス内で現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察、記録し、会議やグループLINEなどを活用し職員全員と共有することによって、現状を把握しプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や要望に対し、それぞれの思いを尊重した支援を行なっている。本人の要望が強かったため、行きたいと訴えられていたお寺にお連れした例がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療については往診や薬剤師、歯科衛生士の訪問、移動については介護タクシーを利用している。ただ、現在コロナの影響で、ボランティアの受け入れや地域のイベントへの参加や住民参加型の行事は出来ていない。移動販売や訪問利用など本人が暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療が受けられるよう努めている。本人の状況や家族の都合により、定期受診から訪問診療へ変更するなど要望に合わせて適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一回、看護師に利用者一人ひとりの体調チェックをしていただき、相談したり、アドバイスを受けたりしている。看護師を仲介し、在宅の医師に状態の報告をしていただくことで、適切な受診や日々の体調管理が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には医療機関に対し、正確な情報提供を行い、退院時にはサマリーにより、入退院がスムーズに行えるよう努めている。利用者が安心して治療でき、快復後、元の生活に戻れるよう、医療機関との情報交換を密に行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化した場合や、終末期のあり方について家族や本人と話し合い、事業所で対応できる範囲において、なるべく希望に沿えるよう、ケアマネージャーや医師などの協力、連携のもと、方針を共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生の際、慌てることのないよう、定期的に、また必要に応じ、全職員が講習や訓練を受け、知識や技術等の実践力を身につけている。外国人職員や新人職員に対してはちゃんと理解ができるよう研修に時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間、日中想定し、火災だけではなく災害時訓練を行うことで、どのように対応すべきかを身につけている。火災時や避難が必要な際には協力が得られるよう、近所の方へお願いし協力を仰げる体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格や思いを尊重し、愛情をもって対応することで尊厳を傷つけないようにしている。本人の持っているプライドや距離感を大切にしながら言葉かけ等を工夫しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを通し、希望や思いの表現、決定ができるような声かけやケアをおこなうように努めている。自己決定が難しい方は言動から汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムを第一に考え、草むしりの要望があった場合は、一緒に草むしりを行ったり、夜間の水分補給の要望など、その時その時の希望やペースを優先した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備や洋服を着替える際には、一緒に服を選んでいく。厚着や薄着をしている場合はその気候に合った服装にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	今はチルドになってしまったが、以前は一緒におかずを作っていた。おかずを一緒に作れない分一緒に味噌汁とおやつを作っている。コロナになって今は一緒に食事を食べられないが、以前は一緒に並んで会話をしながら食事をしていました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量が少ない場合は、本人が好きな物を提供する。それでも少ない場合は、エンシュアやラコールを提供している。水分量が少ない場合は、本人の好きな飲み物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士に口腔状態の確認をしていただいている。また食後に緑茶でうがいをしている。寝たきりの方は口腔ジェルを使用し、口腔内の乾燥を防止している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に合わせ、出来るだけ自分で尿パッドの交換が出来るよう方法を教えたり、トイレ内に尿パッドやリハビリパンツ等を準備している。また、定時でトイレ誘導を行うことで、尿パッドの交換頻度を少しでも少なくできるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者には、工夫しながら出来るだけ多く水分を摂っていただき、また状態に応じて腹部マッサージをしている。日々の排便の有無をチェックし、医師の指導のもと定時、頓服で薬剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	快く入浴していただけるよう利用者の要望に沿いながら、また入浴中は一緒に歌を歌ったり、会話を増やし楽しい気分になるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気がある時はいつでも休めるよう、ホールにソファを設置している。夜間、不安な様子があれば話に耳を傾け、安心して休んでもいただけるよう手を握ったり暖かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態に合わせて医師の粉薬への変更の相談をしたり、オブラートやオリゴ糖などを使用し、服薬の工夫をしている。薬の変更があれば、以前の処方箋を確認し理解したうえで服薬対応している。変更後は変化の確認が出来るよう様子観察を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き活きと生活が出来るよう、音楽や散歩など一人ひとりに合わせ気分転換の方法を考えている。また、個々の能力に合わせた役割を持っていただくことで、必要なだと感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、以前より自由に外出するのは難しくなったが、密集を避け、公園の桜を見に行ったり、天気の良い日は庭で弁当を食べたりして気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売を利用し、各々希望に応じ商品を選んで、買い物を楽しんでいただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週決まった曜日に、家族と電話で話ができるよう支援している。また、本人も電話が来る日を楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を利用者と一緒に作成したり、思い出の写真集を壁に飾り季節を感じ取れるよう取り組んでいる。また季節を通し、体調を崩さぬよう温度、湿度を管理し、不快にならないよう整理整頓に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は、相性の良い人同士を相席にしたり、一人ひとりの思いを大切に、自由に時間を過ごせるよう適切に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者が昔から馴染みの家具類をそのままホームで使用することで、その人らしく暮らせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを全職員が共有し、適切に見極め、現状維持できるよう支援している。		